



久しぶりの一般質問で登壇した河野議員

清流

河野節子を育てる会

千葉県香取市小見川1025
電話 0478(83)1928
発行責任者 和田 澄子

ホームページ
<https://kohno-setsuko.com/>



梅雨に入って何日も雨が降らないで猛暑が続いております。皆様、いかがお過ごしですか？夏はこれからだというのにこの暑さ、どうなっているのでしょうか。夏本番はどれだけの猛暑になるのか、想像しただけで恐ろしくなります。漁業にも農業にも、かなりダメージがあるようです。問題のお米にも影響が出るのではと不安になります。昨年は不作ではないのに米不足になり、今年は天候のせいでしょうか。事でしょう。

また、先日母校の同窓会総会に出席し、香取市在住の、篠笛奏者片野氏の独演奏と、在校生の郷土芸能部の演奏を鑑賞しました。篠笛の繊細な音の素晴らしい演奏、そして学生の演奏では、聴衆全員が音に合わせ体を動かしてお祭り気分を味わい、暑さも吹き飛ばす一時でした。各地のお祭りや花火大会等、イベントが続く事と思いますが、熱中症に気をつけお過ごし下さいませ。清流102号をお届けします。

和田

令和7年6月議会報告

令和7年5月26日から6月13日までの19日間会期で開催された6月議会には、一般会計補正予算他7件の議案と人権擁護委員の推薦に関する諮問案件2件、報告案件9件が提案され、すべて可決されました。

（1名は移住・定住拡大に向けてのイベント企画や情報発信業務、1名は移住者の相談業務）

- * 定額減税補足給付金（不足額給付）支給事業—2億1499万1千円（令和6年度実施の支給額に不足が生じる場合、不足分を追加給付するための経費）
- * 医療関係従事者育成・定住事業—256万円（看護師等修学資金貸付の応募者が当初の見込みを超え、当初3名が1週間内に申請、さらに3名の申請希望者があった為）
- * 地域防災対策事業—170万円（ライオンズクラブからの防災対策に係る寄付金を活用して、防災備品整備）

議案第2号—水道事業会計補正予算は小見川浄水場更新工事について、建設事業費の高騰に伴い総額及び年割額を変更するもの

補正前総額98億221万9千円
補正後総額110億1221万9千円

万9千円

議案第3号—農業集落排水事業会計補正予算は、資本的収支において、収入に383万5千円を、支出に380万円を追加するもので、支出の内容は、白井・山川地区の処理場改良費380万円を追加。

議案第4号から第6号までは専決処分された税条例の一部改正を承認する案件。

議案第7号については5月2日の大雨被害に対応するため経費の専決処分を承認する案件で、公共土木施設災害復旧費に1310万円、教育施設災害復旧費に150万円、その他公共施設・公用施設等災害復旧費に200万円計上。諮問案件2件は、人権擁護委員候補者の推薦についてで、福水睦夫氏、平川淳一氏が推薦され、議会において承認されました。

佐原高校郷土芸能部の演奏と片野聡さんの篠笛演奏を満喫

昨年、千葉県と姉妹関係を結ぶアメリカのウィスコンシン州に文化交流のため派遣された佐原高校郷土芸能部の皆さんが、高校の同窓会総会においてウィスコンシン州での活動の様子を映像を用いて報告してくれました。

その後、コンパスイベントホールにおいて、佐原囃子を始め、数々の山車演目を演奏してくれ、私も思わず曲に合わせて踊りの身振りに手が動いていました。

また渡米に同行された香取市

在住の片野聡さんとのコラボ、そして、片野さんの篠笛独奏に心が洗われるような音色と演奏のすばらしさを満喫させていただきました。



片野聡さんは、元香取市議会議員の片野政昭さんのご子息で、7歳のころからお父さんに倣って笛を吹き始めたそうですが、今ではプロの篠笛奏者。作曲もされておられます。6月7日、小見川中央地区社協の主催で一人暮らし高齢者の皆さんとあやめパークを訪れた際も、片野さんの素敵な演奏を聴かせていただきました。



河野議員の活動報告

- R7年4月12日 中央地区まちづくり協議会
- 13日 桜プロジェクト下草刈り
- 15日 広報特別委員会
- 18日 小見川中教職員歓迎会
- 20日 ボランティア清掃
- 23日 地区社協役員会
- 24日 ライドシェア勉強会
- 25日 小見川中央小教職員歓迎会
- 26日 子ども食堂手伝い
- 5月3日 一人暮らし高齢者の集い
- 4日 ボランティア清掃
- 10日 中央地区まちづくり協議会
- 11日 桜プロジェクト下草刈り
- 15日 桜プロジェクト総会
- 18日 広報特別委員会メンバーで広聴活動
- 18日 ボランティア清掃
- 19日 小見川文協祭
- 19日 議会運営委員会
- 20日 議会全員協議会
- 20日 青色申告会小見川支部総会
- 24日 小見川中央小運動会
- 25日 風の郷厚生園創立記念式典
- 26日 （6月13日）6月定例議会
- 6月5日 本会議（提案理由の説明）
- 6月6日 本会議（一般質問）
- 7日 中央地区社協、一人暮らし高齢者の集い（あやめパークへ）
- 8日 桜プロジェクト下草刈り
- 9日 総務政策常任委員会
- 11日 成田市議会傍聴
- 13日 議会運営委員会
- 本会議最終日
- 行政懇談会
- 14日 中央地区まちづくり協議会
- 15日 千葉県民デーのイベント
- 17日 地区社協役員会
- 22日 佐原高校同窓会総会
- 26日 ライドシェア勉強会
- 7月1日 広報特別委員会
- 6日 市民レガッタ大会
- 8日 成田空港対策特別委員会

河野議員の議会報告 そして皆で語る会

市民参加
カフェを 開催
します

日時.R7年8月2日(土)
PM1:30~3:30

場所.小見川市民センター
101号室

皆さんの御参加を
お待ちしております

持続可能な医療体制の確立を目指す

6月5日、久しぶりに一般質問をし、合併当初より市民の皆さんにとって一番の関心事であり、強く望まれていた医療体制の充実について、今後とも持続可能な医療体制を維持していくための市の姿勢と現状についてを質しました。

地域医療とは、地域に暮らす住民の健康維持、健康増進を目的として構築される地域全体の医療体制の事で、地域包括ケアシステムに根差した考えに基づき、医療機関は組織の垣根を越えて、他の医療機関や関係組織と連携し、患者にとつて最適な医療を提供することが求められているが、香取市のビジョンと現状は？

福祉健康部長 香取海浜保健医療圏における施策の方向性として、病床機能の分化及び連携の推進、在宅医療提供体制の充実・強化、医療従事者の確保・定着が掲げられており、香取市としては、総合計画の中で、医療機関の連携と相談体制等の確保、産婦人科施設の円滑な開設と安定経営に向けた継続的な支援、県の計画を踏まえた地域医療体制の充実、香取おみがわ医療センターの経営基盤の強化及び安定化を施策として掲げている。

市内の病院数と病床数は？

福祉健康部長 市内の病院数

は6ヶ所、診療所数は46ヶ所、香取海浜保健医療圏内の病院の一般病床数は1861床、診療所の一般病床数は58床。

おみがわ医療センター には、旭中央病院からの患者の受け入れや、在宅介護の患者の入院を可能にする**地域包括ケア病床**があるが、その数は？

福祉健康部長 令和7年5月から50床となっている。

病院 どうし**或いは病院と開業医との連携体制**は取れているか？

福祉健康部長 各開業医が連携する病院に対して患者を紹介したり、県立佐原病院やおみがわ医療センターでは、市内の開業医から紹介された、一時的に在宅介護が困難となった患者を短期入院制度であるレスパイト入院として受け入れるなどの連携を取っている。

また、おみがわ医療センターでは、令和6年4月から連携栄養指導を行って、地域の医療機関と病診連携の強化に努めている。

訪問看護ステーションの現状は？

福祉健康部長 小見川地区に5ヶ所、佐原地区に4ヶ所の計9ヶ所あり、県立佐原病院の訪問看護ステーションさわらが主体となつて事業者同士の定期的な会合を持ち、連携を図っているとのこと。

医療従事者の確保・定着が以前からの課題となつて

いる。医師にしても看護師にしても高齢化は免れず、将来的にもマンパワーの養成が求められている。

看護専門学校の存続を求めて

先般独立行政法人おみがわ医療センターの理事長より、法人附属の看護専門学校を令和8年の入学生を最後に閉校したい旨の申し入れがあったが、今年度看護学校への入学者数は？

福祉健康部長 佐原看護学校の入学者数は15名。

鹿島准看護学校の入学者数は19名と聞いている。

これらの入学生が2年後小見川の看護専門学校に進学する可能性は高く、学校が無くなつてしまつては行き先がなくなる。

折角地元にある看護専門学校を閉校ありきの議論ではなく、どうしたら存続できるかの議論はされているのか？

市長 法人の意見は意見として尊重するが、香取市として、法人とは違う観点からを含め、看護師養成機関を何とか残せないか、各種関係機関と検討したい。

持続可能な医療体制を確立していくためには、県の保健医療計画で示されている地域医療体制の充実に加えて、市としても医療従事者の確保・定着については特に力を入れていかなければならない。看護専門学校についても法人で存続させるのは無理なら、市としてどういう形で存続で

きるかしつかりと議論をして欲しい。今年度から香取市では、看護師や保健師を目指す学生に奨学金を支給する条例を制定したが、応募者が予定の倍集まり、補正予算が組まれた。(後日確認すると、准看生3名、おみがわ看護専門学校生3名)卒業後市内に定住し、市内の医療機関に勤務することが条件なので、この施策も功を奏することを期待している。

また医師を目指す人材に対しても奨学金を支給する制度の設立を求めるがいかがか？

市長 他の市町村でもいろいろな形態でやっているのだから、それらの事例を調査研究していきたい。

公共交通体系の見直しについて

昨年10月より実証運行されている自家用有償旅客運送の「かとくる」と循環バスの利用状況は？

総合政策部長 ワゴン車7台を使用して、山田区、栗源区、佐原地区の一部を予約に応じてドア・ツー・ドアで運行している「かとくる」の区域運行利用者は延べ1727人、ルート運行の利用者は4103人。

小見川地区における循環バスは、3ルートで、小見川駅から小見川高校、下小堀方面經由の北西ルート利用者は8237人、小見川駅から小見川支所、おみがわ医療センター、カインズ方面經由の南西ルート利用者は381人、小見川

駅から小見川団地、大根塚、阿玉川經由の北東ルート利用者は133人。

「かとくる」の利用状況が芳しくない理由は何か

総合政策部長 「かとくる」を利用するにはまず利用登録が必要で、事前予約制なので今までのバスとは利用方法が異なり、慣れ親しんでいないことと周知不足のためと思われる。

小見川地区の循環バスの利用者数を見ると、北西ルートは8237人も利用者がありながら、南西ルートは381人、北東ルートは133人というように極端に少ない。ルートはどのように決められたのか？

総合政策部長 小見川高校生の利用が多かった城山經由の北西ルートは踏襲し、小見川市街地を循環して通院、買い物利用を想定した南西ルート、それに加えて新たに小見川団地や阿玉川にバスを運行することで、定時性の高い循環バスとドア・ツー・ドアの乗り合いタクシーを選択できるよう北東ルートを設けた。

3ルートの交通結節点を小見川駅発着として目的に応じた乗り換えが可能とする考えのもとに決めた。

公共交通というものは住民が日常的に使う手段であるから、駅中心というより行先中心の考え方でルートを決めるべき。駅での乗り換えが不便という声が大いなので、北東ルートと南西ルートを一本

化できないか？

総合政策部長 小見川駅での不便さについての声は寄せられているので、内部では検討している。

乗り換えてまで買い物や通院には利用しないという市民の声が大い。市民の声を十分に聴いて交通協議会においても議論して欲しい。

また小見川地区においては路線バスが廃止になった北地区、循環バスが無くなった西地区、そして利根川以北の新田地区はまさに陸の孤島になりつつあり、高齢者にとっては免許の返納もできずに困っている。循環バス或いは「かとくる」を導入することはできないか？

総合政策部長 鋭意交通事業者と協議している。

現状改善に向けた今後の見通しは？

総合政策部長 交通事業者との協議中で時期を伝えるのは難しいが、早くできるように頑張りたい。

高齢化が進む香取市においては、住民生活の足を確保することが喫緊の課題であり、昨年来「かとくる」や循環バスの実証運行がされているが、既に問題点が浮き彫りにされてきている。課題解決の方策を望むと同時に、交通空白地区に対しても、自家用有償旅客運送制度を取り入れた「かとくる」の導入を強く要望。

